(45)

,

.

### INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

RECUEST FORM

31st July,

1945

INCIDENT - ACCUSED

JUDGE ALBERT VILLIAIS

The undersigned requests the consideration of Document # 5134 (describe):

Affidavit by Brig. A.S.Blackburn and translation into Japanese of the Excerpts marked by a blue ink vertical line thereon

for introduction in evidence (specify purpose)

Class B & C. Offences

R. I. Janis

Staff Attorney

31 July 1946

2 - AUG 1946

TO THE DOCUMENT OFFICER:

The above document has been approved for processing by you with changes as follows:

8-2

Judge Albert Williams Document Control Attorney

By\_\_\_\_\_Secreta

### GENTERAL HEADQUARTERS SUPREME COMMANDAL FOR THE ABLIED FOWERS INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

2 James , 1946

TO: TRANSLATION CONTROL

Attached is Document No. 5134 for Davies.

Arrange for translation as follows: 500.

Affidavit by Brig. A.S. Blackburn and translation into ap. of the excerpts marked by a bly ink vertical line thereon.

(NOTE: DO FOT REMOVE FROM ATTACHED MATERIAL)

### IFTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

RECUEST FORM

1945

INCIDENT - ACCUSED

JUDGE ALBERT WILLIAMS

The undersigned requests the consideration of Document # 5/34 (describe):

6 scurpts of runner of mice of Brygoder Blackhum as to headamt
no P.O. W. in Forman

( Oryand appeared second Leverill)

for introduction in evidence (specify purpose) as to healment of Pow.

Thomas F. Monnes

Staff Attorney

15 hry 194

15 MAY 1946

TO THE DOCUMENT OFFICER:

The above document has been approved for processing by you with changes as follows:

To copies Islamil amehora

Judge Albert Williams
Document Control Attorney

By\_\_\_\_\_Secretary

# DOCUMENT DIVISION 7-25 1946 The strate station is requested to Cum Doc. No. 5/34 requested by Bruman in Jap, No. of pages // No. of copies 9

COMPLETED:

Date 25 July

Signature 0.1.

VAULT:

Date 7/25

Room 347, It. Alexander.

\_ Signature\_\_

This receipt with two copies of this document attached to go to

ス バ 1 宣審シテ統間サレタ

司 7 左 37 13 H テ 启 + 0 9 2 記 サ ナ 12 ブ 八 4 4 ŋ V 7 S テ \_ デ 日九 3 九 ラ 四十 花 7 デ 7 セシ 四 F " • 道 1 . デニ 27 = 1. ・ 指 = ソ CE C 年 ンデい 延レー回 ブ . シ烈 田 パ月 一 レ カ 多輪 月 0 2 グテラグ三 デ + 1 六 ヴ日段烈日 行 7 \_ 0 鸦 יני י サ ティカ 导 月 1 日 · デ ヤアラ V 俘 私 ノ 私 ス 島ノ始 指 0 及 歲 九 F 部 描 7 私 九. 迎 白 月 10: 3 デ 官 サ. 川 及 III. 7 テ 1 爪 ĮĮ, 華 生 1 1 嚴 日 大 共 哇 1 2 生 1 + 败 双 \* 部 重 = + 容 7 分 1 ル 俘 7 月 所 丰 月 7 門 B 2 監 テ 而

官 3 烈 Di. 45 石 福 Q 2 岸 -D 7 村 到 1 約 = 大 到 晋 = D. 京 尉 シアルク ガ IJ ス後 ス カ テルニ = ル ラ版 旅 N -花行 奶 石 力 3 日分 3 ラ 7 不 モ 蓮 式 2 红潭 港一 型 ルニ イハギ語 1. 3 牛 九 正式 h 名 命 又 ヤ回 7 云 -私 V = 令 內 ン三 " ヲ詩 異 ル = 爲 名 2 部 コ 私 先 ラ ス ス 1 ナ 月 = 彼 J ヲ 7 到 日 避 命 F 服 1 7 ZX 着 日 攀 4 9 從 1, 歌 デ 强 サ ス 指 中调 1 要 私 私 推. 2 V 2

not used

74 テ テ 3,5 后世下 9 テク ŋ 弘二 ガ被 1 % 7 A マフナ 部 714 Di 111 才 ッラ ック ニブ 767 福 ク丁 兵 × 1 歷 取 所 7 9 迁 副 4 將 La 始 值 3 私 ガ テ 緯 \* 而 智 行 2 兵 么 " 丰 2 2 私 所 以 彼 1 , M. ス ^ 1 私 邇 デ 総 ガ ハ 恋 知 1 入 回 额 ズ 4 IJ 11 ツ "

デ IJ 怼 ケハラ マ烈陰 1 豆 私 1 聞ラ 夕面烈 134 O 7 1 ツジ 9 = , h ツ 被 テ ŋ 頸 監 111 1 及 房 ツ私 E ラ 3 9 約 ŋ 703 所 テ 7 行 2 四 1 2 隅 + カ ~ 囘 ~ ソ 追 æ 込 2 V 挪 边 ŋ 2 3

郭 7 共 5 高 V テ 丰 知意 L 3 7 7 7 2 . 馬 1 國 ブ 和 2 Til 1 1.0 邦 及 中 375 K = . 河 囫 25 全 坡 將 太 洋 ヤ 裁 香 靈 判 所 港 爭 3 受 ŋ 44 馬 モ 恋 築 L 含 ッ

彼 划 ,中 5 5 , 弘 27 コイ設 V F ブ 五: ~ 所 验 ナ 1 = €. 及 • 他 並 耿 他 ノ敬 7 = ス . 各 1 高 x 秘 7 將 同 シュー 2 B 校 7 兵 = 7 力 四 200 ル 政 . ガ ッ粉 捌 TI テ 居 ウェ 413 7 N E 3

IJ

附ハ治トト深ハル 弦 犯 ガ 1 ゲメ ケ際ル服・ノリ 貯ロタケ同 ノシハニ マ和トノ及急階 ŋ マ ット 爪テ 全 デ 、云 他 或 シ除 = 5 4 ク此 1 5 テ型 1.3 v の借 高 暗 フノルーマ 后前 歷 3 コー 行 不ノ陰/ 又 ルシノ稿トニシ可へ亙ラ 人》 口部局 八八八分形中兵王新福市中見等 ハテ 福八 1 分 兵 御 ラ 一花 / 形 福月 1 1 ハナラテ 54. 發於夕兵私ガタサ所 ガ 日 趋为 腿 イ原 1.3 見 9 × Si 0~阿 3 2 = 7 親 ジブ 题, 征木 2 ルジ 4 い。 則 テ則 ンラ 方称 ナマラ外 7 ハガ 温 デ 汀 1 ガ 1 1 中華 ッなア弱型、副 イン版ス度シ 衙 爪 ラヴ テ方ツニケセ郎文 立名。上 K J 兵 3 刨 27 テ 318 此 ラ ナ 2 歪 開 右 テ 居 刨 = 衙 7 方 N n 打 J 兵 你 內 1 百 將 粉,正 F 時 ナ 1 チ 1 9 3 IJ 鬼 1 ラ デ E: 1 51 2 × 궁 1 俘 7 0 日 7 J. 前 Ŧ 鬱 見 ガラ デ 1 手 奕 7 例 1 V 罰 固 ナ 7 罪 7 型 叉 此 品 モ ョ 7 然 前 ~ N 深 口 לכ 糠 I 揚 力 = 至10 JE. ラ 姤 見 × 扬 出 7

動 ンツテツガ気 信 I = アト記シ廻プノ テ管発 后 七版 大ガジベ " 1 クッー 晋 マウー逝 音ノ Li マデ 1 垭 1 3.5 2 テ中 取 情 3 倒 デ = 情 スノ トニ歌モ源ラガラ多ナラ 便 タる一 1 私。此 2 范 ター出 1是 人一切所 云ハ ガリンル 11 ナ 止额 云剑方 71 1 小 私 花 八 同 面 ル 19 ササメノ 7 F フハ針 7 7 二 デ 等 間 症 征 同ナデ 压 ノ白 V レラ筋 トト環か 記 ガ 77 モガ 促 室 所 77 記シマロ欲被 ガデ デー モ 1: 7 ラ 申 变· 所 ノへ気 シラ振 5 2 ウシ記 シ陽完 7) シ代へ 個行 グノデ・ 1 2 1 会ラ 1 1 2 131 7 テマニ行 所ク 意・治ショ・ スト 高 131 二清テ シャ質 タレ額 令 見之 ル題級 セマカ 力 刻 內 E. 少八兵啼ム鳴ク二熱サメ ルウラ柄デハニ 立 ス決 ハハを複部金 , 2, 整 力 ト百 = ョ 高 名 立レラ 窓スヤッ、定ツ級村直言ニ等 下其 前一テルレ便 1 イ 私 サ テ 勝 ノデ番ニル ガニ語ナニガキデモャ 所 居中庭シ人 ナ人ドテガレ行 校数弱がツ部 烈ヤ ル タヤヘタニ 一タハ色意ラークシ 位說 シン語ト 12 行 出コ級 テ熱離明寸方レノニ操キッテクプハ私 前針タコ類シャー凡 ノ告 居レレシ 力 型 八 八

ガリシ鉄沿 テ デ 歷 " 口 コのウラ兵行 ラ行アに ŋ ガ マットゥニナハキ スン叉称 ツラ所 レク 迎 实 等 フ 五粉 1 0 V ~ デン マ寫 63 ハラ ガ 何 部 绘 分校 筒ルシニ 院 ラー 7 1 绺 打 1 0、行 普 = ガ 10 il 中 レ阿 包 二 四 二 二 ト が 元 私記か 汀ス 福 日か IJ 7 粉 -ガ 仮 此 = 浜バハ谷・原 道 デ 1 4. ヤル 2 テ 2 兵 1 抗 討 7. バケ水兵 騎 他、ラブラデ 初 シホ 足コナギ 周 二 道 五 梭 ラケッノハ 前 知三 ノ福 1 1 1 1 2 呼 テ 押 ツー 想レ 1 ツ原 ガデト・ガ 跃 入 9 9 77 見 一亚 昼 + 称 25 酮 7 ~ 7 記 " シア テ 药 夫ァ × 思 防ニテ変 出 后ラレ 取 7 R ル "和 fi. 億 4 N 1 20 盟 " ラ レ酸 少 指 コデ水 2 衣 " 胨 N 7 衙 レスマ テ F 充 7 テ r 兵 7 冰 便 = 7 ス 德 サ ス 福 并 7 ラ テ ガ テ 污 分 入 y 官 25 檔 4 所 S. 兵 0 師 型 七 נכ L 2 卷 1 2 = v 勿 = ス 魏 被 2 ガ 又 1 · 1 1 ? 9 3 14 ラ 常 ノ鈴 抗 ア 入 摻 差 0 受ケ サ 間 1 デ 勃 衞 7 -齡 不 1 懲 ナ > \* = 私 米 1 t IJ 口 现, 拶 原 兵 便 可 IJ 周 淚 可 サ 是 納 ナ ŋ E 团 1 ル、「流 1 43 七 所 亚 築 = 挺 笔 ス 便 非 七 视 歷 + ·將 1 = 將被 ガ 1 ズ IJ 球 便 デ 時 出 デ デ n 分 カ モ 所 祾 V デ Ý. デ 入 所

レスが 命 副 [77] 歷 5 中モ烈ダ ョニ 十 9 命指が ルル 国ジ マリ 15 3 時到产品余 追 ウ 人人汽 附 1 ノズ 切 ・ラ 征, 地 ア官 E -= 75 4 " 万 积 V 即 ノ箭他 T: ソ態烈 ツノ サテ へ言 校 八上 人 歩モ發兵ノセ各 百白 夕 祭 認 レガノスニ リガ 章 云 多が 粉 日 自 號 = 口答 为 出 耳 / 何 1 私 テモ 73 被 7 9 寄 ウ ガ ナ ラ 27 7 此 ラ源 即 5 1 1 トト最 っマ、遊 デッ 四 ガ ツズ 取出 切 取ッ Til " IJ ス管 v = × 胴 テニ 共 12 益 テ ハ多レ リテ 始一二想 一意マック型 廽 デ 3% = ンレノ タック 行 人人則マ立ノ行 サデリ シ見受キ 督ノ ラ メ 2 穏マガハ 迎シッ 江 高 蹴 题 IJ テ ガ 2 7 2 云 叉 2 \_ 0 シ、猿 地 后 統 級 ナ = 2 9 私 9 又 ŋ 起 2 0 上 押 0 劍 粉-人 テ = 提 永 怼 IJ 翮 到 ズ 1 = 土等 ヲ校 4 又 彼 片 ナ 禁 部 田 7 抗 附 或 出 ラ 私 荻 颛 歷 例 ケハ 持 平 モ 何 過 3 1 方 時 " 3 部 私私 ・レ ノ一型 1 チ唇 融直 n 2 3 加 入 丈 ョ・合 シガ 何 テ , 4 0 ス 到 ガ 腿 1 ガ 訟 ヲ 悉 マ 徹 ソ部 7 启 世 葉 懲 ス 約 7 聊 则 口 4 受ノノ ル

E: k 4 特 ス デ 眼 弘 7 IJ 7 デ 7 ナ 共 シ返 0 0 シデ 附 時左 將 度ノ知 1 额 1 In 皇 四 刻 兵 滴 2 3 5 " 7 N 21 手 50 ガ・子 ガ 3 1 ナ 1 ~ ~ 管 テ 25 13 = 马 9 征 申 云江 チッハ 后 ガ 停 河 二 姿 並 以 ŋ 7 = 大 177 132 10 停 が ナ 原 ハ部マ酸 マ后 雷 今 六 5 レ記 V 正バ 衙 刷 ラ掛デ 20 及 猫 6,3 的 シレ デ 3 ル ~ 2 77 受心 兵 ラア 2. 說 ナダ而 E 生 立 12 クコ 力 1 1 爲 キラ 3 4 所能 ケ窓 0 テ ンレ U Tie 2 デ M = ラ テ 1 1 ス ナサへ雷 2: テ 私 被 聯 23 左 K ガ 10 レヨ 居 (=) 件 衞 45 宿 征粉 リレ 襚 デ 1 = 脑 25 出 N Di ハ 所 中心 迴 二 兵 暗 ナル 3 迁 額 仰 n 376 ガ モ タイモコ日へ話ハニ川附ギツ 1 彼 步 2,2 解 問 サ That . デ ズ 兵 豐 E 1 七十 2 云 預、ラ 打 說 デ ラ ZX 迎 买 ガ テ V 衙 随 1 ナ 畸 明 智 語 然 テ ナ 擲 7 傷 明 許 亞 私 1 2 ガ V V 1 被 形 1 3 瘤 サシ デ下 自 # 3 H 7 テ 抗 2 畸 לכ 2 トガ = 帶 受 レ卵 IJ 何 多分 テ 月 行 " 部 2 + 体 形 云 徹 ナ 何 ス 2 + = マ人 Ü 官 カガ X テ 7 77 二 防 7 此 瀜 " 云 4 您 ガ 計ラ 7 362 E V 理 7 9 テ 1 2 規 7 手 テ V 4 额 學 デノト 3 ス 辛 启 遊 由 ス

がタヨラ欧 物兵を しょク カンタの分 中 弘 敬 易 I) 3 = 彼 ガ テ · 3 ブ 12 加 同 私ガンヒ 多七 仁即 テ 雷 リテ 大 及 不 直 尉 ヲ 品 彼 7 E 居 前 7,5 ブ ゥ 可 3 見 校 菜 = 1 1 呼 V 4 ツ テ y 3 入 = ナ -以 D. 1 遊 9 73 13 7 感 3 25 外 4 八 输 冒 2 dir n 1 0 " 2 X 配 7 V 7 蹴 歷 套 ブ 粉 前 9 别 1 0 當 9 ツ F 烈 撐 ラ 打 7 直 力 引 蒲 K 规 校 倒 云 3 2 头 ス 7 火人总問 蒞 則 船 愈 湿 寸 大 7 ガ マレ N 1 2 IJ 盤 規 防 テ 被 7 1 验 政 儘 則 子タ 帽 所 出とん デ 9 テ ヲ IJ 呼 名 27 0 ガ 2 弘 モ 且 横 出 附 出 彼 破 9 カ 認 涨 丽 私 ~ 見 平 奖 冠 居 非 テ v N ツ 藩 呼 ル 來 中 4 1 1 四ス奇喝 リマッ 篮 D. F 時 デ 磁 3. 颤 國將 テ 常 器 = ナ 7 知 1 V 當科 立チ 內 シタの = 7 ナ 9 ス ガ ハ 1 窸 テ 校 デ 寒 冠 宿 反 六 云 0 サ 7 り 英ラダ 经 1 則 E 所 從 七 冠 カ 回 4 翌 7 E w V R 共 私 女 風 朝 5 行 モ 2 2 IJ ナ = 174 1

極 局 " 米 飯 此 7 丰 鄰 7 2 ス ブ デ ブ 最 71 初

二 式 714 給サ ガ 1 Ξ 云 趋 7 レハ V マレ = い品人以二重 セマシ = = 郊グ グリー 十五 デ 2 到 B . N 麗 1 . 爲 . · 部 目方 1 グケ ガ 酸 ン・ナ 弘 沙 El. 即 支 ŋ サ 重 inc. = V 逐步 品 テ 2 間 藩 步 够 5 極 步 貓 モ 7

. . 8

ノ野 治ラ 牛中 セン 改革タケ デシジの 型ノ信加 IJ ンプニ \* 私 セ 部 1 n 2 ~ 1 記をハアリマ 花凯 デシジンの 不 デ 抗 法 2 觀 13/10 ラ温 80 ラ欧山ス 丰 統 7 믭 シン 7 ブ サ シテ 憶 デ 艺 デ לכ 短 1 唯 尼 -八何 私 7 毛 43 1 灣 界 3 花 製 IJ ~ 菰 港 祭

• • 

學為 약 30 ジレ 芸 丁 稲 和茅門 ンプ デ が被 SI THE -マハ 2 九四 立サマ 7 シー 3 トコロニ 30 7 延 = 41 ・・テ行 示 シダガ 梦 • 四月公 5 0 泓 . L-京 2 77 4. V 1 31/ 此 12 15 丰 宁 是能如 7 ヺ シ赤十 100 ブ 马 2 荷少 三二 四 V 10 在 · 知 ブ ラ 学品 六月 デ 七 图 ŋ 並 ヤ = 月 12 5 = 1 1 额 二白 1 號 v ノ器 ハと相 日 瓣 當 细 テ 之 デ JII

問 除 テ ラ 本 抗 度 9 压 TI 夫ス 識・夫 氣 怨 L'II 循 亚 カノ ナ 所 過 出 兵 ノ一張 出》 ル 內 コ 酒 迎 丈 = 7 サテギ 1 糖 ス 用 100 1 ョ 范 便 此 レ部ナ 下ラ 7 稳下 显 7 1 冰一 マヘイ語分 ニデ 所 タカ 1 自 7 = + シ線 制ツ云馬 シズ ッ人 0 ガ 分 流 私 . テ、夫 五 27 滋 夕 苦 テス 穴 サ 及 1 芝 0 ブ 驱 V 悀 ハレ レ腐 F 四 ル 巡 ガ 9 テ ブ ブナト 后 7 私 欠 7 7 1 ーシキ 7 抗 征 便 V ラシリ人 2 亡 及 所 3 タキ E ノデハ 態 中 便 丝 說 濫 所 丰 ブ ブ 出 行 デ 5 央 國 稿 ⑩ 佐 7 9 牛 テ O V 7 カ ヲ 蕴 3 雪 何 官 2 楄 持 n 入 衙 ラ V ン ディ 源 隐 際 生 除 " カ ブ 2 " 1 ョ 牙 船 品 畑 止 便 5 3 ス 窒 テ 云 校 = サ 脐 整 消 工 7 绛 愁 ル × 野 v 歐 震 德 4: 趋 三 Ξ 全ク 便 7 1 ZZ ~ シレ 7 為 祭 週 F 播 ガ 湿 3 官 1 肝 = 便 日

弘 ラ 流 万 答 官 133 7 外 頂 泉 夫 代 云 ツ " 7 力 テ 代 \* テ テ 普 問 幾 לל 私 士 ガ 1 4 其 ガ 7 斯 V ガ 更 仕 כל 普 然 缅 進 仕 ヲ 1 + 7 度 ラ

シ版レ九の別マロ 私 ガ 別の 野シ四 肝ノガ・十 分 キ 居 途 月 ラヤタ中族 シン一型 テ プハ鈴 录 ノイハ電 王 龄 狀 ト 態一九 將 四 II + 私 + 二 等 华人 æ + 受 ン物 日 ケブツ 75 デ 3 ラ 旅 ニ 到多 多報。告 空 致 翰 告 ŋ

### DOCUMENT DIVISION

	1946
IN SOURAFI WOTION is requested to _	Peun DOG. NO. 5/34
requested by Dumanin	
No. of copies /25	

COMPLETED:

Date Bluy

Signature

VAULT:

Dote\_

Signature

This receipt with two copies of this document attached to go to Room 347, It. Alexander.

Wased Page 1

ARTHUR SEAFORTH BLACKBURN, sworn and examined:

I am SX6962 Brigadier Arthur Seaforth Blackburn. I was G.O.C., A.I.F. in Java and was taken prisoner with my troops on 12 March 1942. Until early in April we were not placed under close confinement. I have spent most of my time as a prisoner of war in the following camps: Cycle Camp, Batavia, from 3 April 1942 to 29 December 1942. I was then taken via Changi and Moji in Japan to Formosa where I was in prison camps at Karenko, Tamasata and Shirakawa until 1 October 1944 ...... we travelled to Formosa and arrived in Karenko camp, on the east coast of Formosa, on 1 February 1943. Within a few minutes of arriving I was ordered by the Japanese Commandant, Captain Namura, to sign a form undertaking to obey without question all orders of the Nipponese. Upon my informing him that it was against my honour to sign any such form and that I would not do so unless compelled so to do, he struck at me with his fist, but I managed to dodge the blow. He then summoned sentries from the guardhouse, who seized me and took me to the guardhouse and proceeded to strip off all my clothes, boots and socks. Just as I had got down to my underpants, an officer of the camp, whom we know as Foxy Percyx -- I do not know his name otherwise -- entered the guardhouse, placed a sentry each side of me and proceeded to strike me with his fists and to kick me. He struck me some 30 or 40 times in the face, head, neck and chest, until he finally drove me into a corner of the guardroom where he again struck and kicked me. I was then led along a passage to a cell.

..... Included in that camp were the senior British, Dutch and American Generals from all Pacific fronts, the Governors of Hong Kong and Federated Malay States and the Chief Justices of the Federated Malay States and of Singapore.

. . . . . . . . . . . . . . . . . . .

How were they treated? -- They were treated the same as everyone else in the camp. I have seen sentries - private soldiers - striking the Governors, the Chief Justices, as well as General Percival, General Wainwright and other senior officers.

General Percival was there? -- Yes. I have seen him very severely beaten by sentries, private soldiers. The general treatment in the camp was extremely severe. Beatings were literally a daily occurrence and it was utterly impossible in this camp to avoid these beatings. Impossible rules were made as excuses for punishments. For example, we suddenly found that a rule existed, of which we had never heard before, to the effect that it was an offense to have any dirt under one's finger nails. Japanese sentries stopped prisoners about the grounds and even came into their rooms and insisted on their holding up their hands. At the slightest sign of any dirt whatever under finger nails, the sentries severely beat up the prisoners concerned. I saw General Percival severely beaten up by a private sentry for this alleged offence. On another occasion we discovered that it was an offence to have any button undone, whether on an overcoat or any other part of one's clothing. To pass a sentry without saluting him or

bowing, brought an immediate and heavy punishment, even though the sentry might be behind a bush and quite invisible, or standing a considerable distance away at night in pitch darkness. On occasions I have known 80 to 100 officers out of a total of 300 to be beaten up in one day. Another illustration of the impossibility of avoiding punishment was provided by the position in regard to visits to latrines at night. All this policy, I am sure, was directed from above. We have the most complete proof of that, because, whenever we put in a complaint, within a hour the whole camp would be in an uproar. It got to such a state that a lot of officers asked the senior officers to drop all complaints. When a complaint was going to be put in, word was passed around the camp. The sentries would be round immediately looking for offences. It was most clear proof that this was deliberately instigated by Namura. It was obvious to me that that sort of treatment of higher officers was carried out by direction from the Cabinet. It is my opinion that this was a settled policy. I will describe the matter I mentioned a few moments ago, visits to latrines at night. The latrines were about 100 yards from portion of the sleeping quarters. Every person visiting the latrine at night had to report first of all to a person who can be best described as a prisoner's sentry, which duty we undertook in turn, and have his name entered in the book. From where this entry was made, there were two doors laeding out into the yard of the camp which, of course, was in pitch darkness. If a sentry was standing out in the dark and an officer proceeded to walk away from the reporting table without bowing to him, he was immediately beaten up by the sentry, although to see the sentry in the dark was an utter impossibility. On the way to the latrine he would be stopped by a sentry and the whole of his buttons slowly checked over to see that they were all done up. Alongside the entrance to the latrine on both sides were bushes and it was very common for sentries to stay behind these bushes. If, therefore, one passed the bush without bowing to a sentry, one would be beaten up; again, on return, the passing of any sentry without saluting or bowing would bring punishment.

Would they punch you? -- Yes, punching and kicking. I have known a case of an officer being beaten up three times on the way to the latrine and twice on the way back. He was an American officer, but I cannot remember his name. I have been beaten up three times between leaving my bed to go to the latrine and getting back to my bed again. Another punishment, if a sentry was passed without saluting him, was for the sentry to take the officer concerned to the entrance to the latrines, where there was a tank of water. He would then make him fill up a bucket of water and hold same outright with his arms stretched out for some 10 or 15 minutes. It was, of course, impossible to hold up the course of nature under those circumstances. Inevitably one soiled one's pyjamas while doing this, to the intense amusement of the sentry. Protests were frequently made to the camp commandant about this treatment. It was observed at a very early stage that within an hour or two of protest being lodged there would be a fresh outbreak of punishments. This occurred so frequently that it became quite obvious that the response of the commandant to a complaint or protest was the instruction of sentries to redouble their punishments. So obvious did this become that word used to be passed around when a protest

was going in, so that everybody could try to be on their best behaviour and avoid punishments so far as possible. On one occasion two sentries came to the door of the rooms in which I was standing with some 20 other officers. "e immediately stood to attention and bowed to them as required by their regulations. "ithout saying a word, they walked up to me, the senior officer present, and while one held his rifle and bayonet the other one proceeded to beat me. He beat me the full length of the room and down the other side of the room until he finally got me up against a bed across which I fell, and from there to the ground. While I was on the ground he kicked me on the legs, body and shoulders. My lip was cut and my ear was cut. I received a black eye and numerous bruises and abrasions. He then walked out of the room without saying a word or giving any explanation. Neither I nor any of the other officers present have ever been able to find the slightest offence committed by me which would have brought on this treatment. A protest made against this met with no recress, except the information that, if I made further protests, I would be again punished. General Sir Lewis Heath, who has a slightly deformed arm through a war injury and cannot straighten his left arm, was stood up by a sentry for not having his hands properly to his side when he saluted. General Heath had been in the camp for many months and everyone knew of his deformed arm. He was struck so severely that a blood vessel in his eye was broken and the injured arm was struck heavily and repeatedly by the sentry. In response to a protest over this matter, General Heath received an alleged apology, which in itself was an insult. He was marched under guard to the guard-house and stood to attention, while the N.C.O. of the guard sat at his leisure in the chair and said something to him in Japanese, which General Heath could not understand but which he was told was an apology rarched week informed by Capt. Namura that we were criminals for having fought against Japan, that it was only by the great clemence of the Emperor that we were still permitted to be alive, but that we could expect and would receive no treatment except that meted out to criminals.

When you protested on that matter, did you mention the beatings which you had received? -- I made a protest about that particular one.

What action was taken to apologise to you? -- I received no apology, but merely a threat that I would be punished if I made any more protests. A further rule was that no headdress could be worn inside the barracks. On one particularly cold night, a moment or two before I got into bed, I pulled a balaclava helmet over me head, The sentry saw this, came into the room, intimated that I had broken the rule about no headdress being worn in the room and severely beat me and kicked me. A British officer, Group Captain Bishop, stood at evening roll call in his overcoat. He had a very bad cold and there was a bitterly cold wind. The officer of the day struck him violently some half a dozen times in the face and told him it was against rules to wear overcoats on roll-call. I do not know that officer's name, but the nickname we gave him was "Boots". There were only three officers in that camp, so that they could be easily identified. The next morning at 7 o'clock Group Captain Bishop was sent for and told to go

to the Orderly Room. On arrival there he was again violently attacked by this same officer. He was struck so severely that he was finally knocked off his feet and while lying on the ground, was kicked in the arms, chest and forehead. I saw the severe bruises when he got back to the quarters.

....The food was extremely poor, consisting of the usual rice and thin soup.
....I lost approximately 35 lbs. in the first three months in this camp, although I was notified that the food had improved about the time I got there.
....No clothing of any sort was issued.
....Medical supplies were extremely scarce, medicines having to be strictly limited to really serious cases.

....We received no letters in Karenko camp, but my recollection is that we were permitted to write one letter.

Was there any provision for redress of wrongs? -There was no provision whatever in Karenko camp for the
redress of any wrongs. The only result of putting in a
protest was the redoubling of disciplinary measures.

with the Governors and Chief Justices, were taken to a camp at Tamasata.

told it was not an agricultural district and vegetables were very scarce. A bulk supply of Red Cross goods were, however, made available and it was these alone that kept

us going. .....We were taken to Shirakawa camp in June 1943 and remained until 1 October 1944. The camp was in a malarial swamp area and was extremely unhealthy.

Have you anything to say about the hygiene of this camp? --- The hygiene in this camp was disgusting. The latrines overflowed within a few weeks of our coming into the camp, the overflow flooding into an open drain which ran through the centre of the camp alongside the sleeping quarters and close to the kitchen. Fractically never were sufficient coolies brought into the camp to clean the latrines. Occasionally a few coolies would be brought in with carts and they would take away just sufficient of the material to stop the latrines overflowing. Constant complaints and protests were made to the camp commandant about this matter. We even offered to pay out of our own funds for coolie labour to be brought in to clean up the latrines. As a result of our protests, a party of 40 American Colonels were fallen in under Japanese guards, supplied with buckets and tins and told to empty the latrines. Then they were compelled to cart the buckets of latrine matter out to the farm and spread it over the vegetables on the farm. As a result of our protest about this, we were informed that it was ordinary Eastern farming procedure, but after two days enlisted men were put on to the work instead of the Colonels. Our further protest at enlisted men being put to such work instead of coolies was entirely disregarded. ........

to Japan. In transit we passed through a camp at Haito, where many Australian officers and men had been since early 1942. Conditions in this camp, from information supplied to me and from what I saw, were deplorable. ....

### INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

RECTEST FORM

INCIDENT - ACCUSED

1945

JUDGE ALBERT VILLIANS

The undersigned requests the consideration of Document #5134 B (describe):

Cocarpt of Read of trainer Buyadur A.S. Blackhown as to see voyage for to blenge to fepar. 28 loce in 2.

(buyand record of anderen tradentary Document #5134 Saturdan to 8 May 46.)

for introduction in evidence (specify purpose) as to healment of Poward Sea voyage.

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION
AUSTRALIAN DIVISION
Staff Attorney

13 May

14 MAY 1946

TO THE DOCUMENT OFFICER:

The above document has been approved for processing by you with changes as follows:

Mencil.

Judge Albert Williams
Document Control Attorney

By\_\_\_\_\_Secretary

### INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

INIERNALIONAL PROS	SECUTION SECTION
REQUEST FORM * ACCUSED - INCIDENT	17 June 1916
TO JUDGE ALBERT WILLIAMS:	
The undersigned requests the co Language (Des	nsideration of Document # 5134-0
Excerpts from testimony of Arti	hum Saafamth Dlashhum
before Australian War Crime	s Board of Inquiry
APPENDIX D , SECTION 2 , PARAGE the following purposes:	h in the Indictment under RAPH (b)(c); and/or for
Appendix D, Sec. 8	5 (a)
	7 (2nd para.) 3 (3rd para.)
	V Bowwan
4 JUN 1946 O THE DOCUMENT OFFICER	Staff Attorney
The above Document has been approint changes as follows:	roved for processing by you
	alanda Mullian
	Judge Albert "illiams Document Control Attorney
	Ву
	Sectrotory

### DOCUMENT DIVISION

		1	940
TMEOGRAPH SECTION is requested to requested by Rances in		DOG. NO, No. of pa	
COMPLETED: Date 24 July	Signature_	O, T.1.	
VAULT: Date Ty July	Signature_	48	

This receipt with two copies of this document attached to go to Room 347, It. Alexander.

汝

ラ

デ

及

×

端

万

カ

ラ

11

E

込

9

ŋ

ガ

ガ

ッ

コ

1

ガ

ギ

ツ

3

IJ

誥

ツ

迄

用

時

25

别

7

朝

### 「プリスペーン」クバーンノ設言ノ拔淬 「プリスペーン」ノ豪汎吸犯審査局ニ於ケ

## 一九四五年十月二日

報 軍 有 等 15 = テ 糠 告 自 際 到 殺 ガ 力 分 着 ガ 營 迄 デ K ラ 日 日 ラ 7 俘 寫 九 才 3 合 " 之 我 11 " 同 廖 眼 出 四 B 4 " 7 筵 1 デ w 日 9 ガゴ 行 4 テ 樣 年 # 進 力 7 你 21 T コ 歸 サ ---1 ラ 蠳 丰 出 V 分 × 日 九 V N 餘 私 餘 鐵 9 前 デ ŋ 迄 九 四 テ ガ = 1 見 件 件 Ξ = 月 働 方 1 I 直 歸 = 11 ナ 多 楊 克 其 政 デ グ 华 B カ ラ バ カ 力 府 拉 别 下 デ 明 ラ ラ 處 サ サ 其 = 重 デ = = 月 各 A 勞 勞 ア 米 船 提 庞 着 7 廿 テ 1 自 3 1. 役 國 働 w 六 デ 가-ラ 頭リ、 報告 出テ 服 テ 英 殿 私 B 屋 7 回及 働 0 1 門 デ 現 日 其 牛 デ テ 2 質 司 入 ピ 本 6 先 ツ = 4-ニヒ ヲ發 テ 應 連 1 B 印 出 及 暗 日 ラ 1 度 門 私 0 ッ着 暗 ッ カ 1 司 デ 私 彼 ナ 彼

量 ツ F コ ラ 4 病 9 サ ラ 7 時 货 氮 ツ 1 V 其 テ 、俘 3 カ ツ 1 " 1 便 E 扉 醇 F ラ 1. 時 断 ŋ 彼 9 ガ 行 叩 = 死 ス 進 ラ ~ 連 1 亡 ハハナ n 3 テ 病 ツ 專 F テ V テ 日 ン人 テ 3 出 1 1 步 行 ナ ナ ガ 力 别 力 4 死 時 力 " 步 = 役 1 ナ N 哨 部 1 w モ 時 四 7 屋 診 + ナ 迄 迄 移 9 時 月 ウ 間 錠 4 ラ ラ 其 我 日 及 外 處 IJ A 3 ガ テ 放 醫 力 2

下 早 終 2 デ 1 1 私 テ 脊 E 7 壁 步 31-中 = 自 = 1 9 分 手 ナ 1 薇 直 1 7 ラ 1 立 2 边 眼 見 v ッ 1 1 デ 1 テ 4 0 テ • ラ 注 1 体 病 目 7 " v 7 テ V n テ 銃 ガ 支 勸 1 彼 病 禮 床 ~ 7 室 F ガ ナ 7 見 銃 カ 日 ガ 2 B 便 便 所 步 肝 デ カ 哨 ラ 通 カ テ Æ 銃 ウ n 廊 床

テ

及

+ 全 然 彼 機 分 煙 憋 17 ラ ア ナ = 草 ナ ガ サ 食 1 交 w カ 5 宜 日 夫 y " K ラ 卒 = B 包 = K-コ 人言 與 ガ 4 3 > 處 27 將 テ ^ 置 ナ 校 × w 太 俘 寧 9 ラ ガ ナ 1 9 島 日 風 素 日 必 1 本 = 4 ツ 度 要 氣 " ガ 1. 本 步 B 7 ナ 2 1 啃 7 = ガ 1 恒 ナ ツ 7 自 食 力 ラ 言 " 3 給 彼 與 ラ ラ " 私

記 界 1 詳 物 7 事ヲ関 見ラ 方 申 力 法 ス コ ト、記シカ 彼 モ ラ 得 殺人 0 成 边 ラ ラ 其 庭 ズ 의 ナ 我女 迎 絡 彼ラ 彼ラカラ

IPS 1	DOCUMENT DIVISION	CK
- Ester	is requested to	2 faily 1946
DOC. No. 5/34-0	Requested by Klai	as follows:
Pror	fed	^3
Date Completed:	7.5	
	Doc. o	fficer

.

IPS	DOCUMENT DIVISION	CK
Eng 07	is requested to	27 1946 27
DOC. No. 5-134	- Crequested by	as follows:
		SAM
Date Completed:	Doo	officer 2

EXCERPTS FROM TESTIMONY OF A. S. BLACKBURN, BEFORE AUSTRALIAN WAR CRIMES BOARD OF INQUIRY, BRISBANE, 2 October 1945

\*\*\*

We travelled under similar conditions on another boat to Moji in Japan. Here a number of American, British and Indian troops were being worked under terrible conditions. I saw that myself. I have actually supplied the American Government with a copy of my report. It was so terrible that I made a careful report on it. The prisoners were working at heavy work in a steel factory. They had been there since September 1942. They left their barracks for work half an hour before daylight, so as to arrive there at dawn and worked on continuously each day until dark, when they were marched back to the barracks. They had not had one single day off from the time they arrived until we left Moji on 26 January 1943.

Immediately on arrival back at the barracks, they were made to go into their rooms, in which the beds were so closely packed, that the only means of getting into them was to drawl in over the end, that is, each bed was touching the one next to it. The doors were then looked and they remained there until the morning, except for purposes of nature when they had to knock on the door to attract a Japanese sentry to unlock the door and take them to the latrine.

Sickness was not recognized until a man was too ill to walk. He was then placed in another room and left to remain there. At no time had they received any medical treatment or medicines. On 23 January an Indian prisoner died and was still lying in his bed 48 hours later, when we were marched out of the barracks.

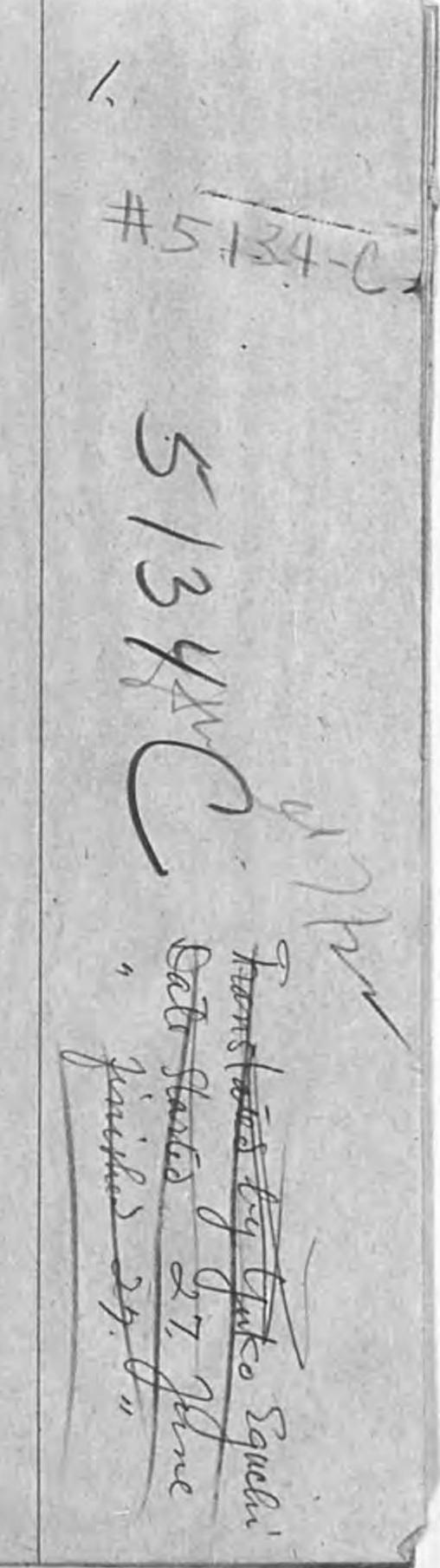
I myself saw a sick man from the sick room trying to get along to the latrine by supporting himself with his hands against the wall of the passage leading to the latrine and I saw him threatened with a rifle butt and bayonet by a Japanese sentry for not going faster and finally struck on the back with the rifle butt for not standing to attention and saluting.

They looked supremely miserable, although they were well fed. As a Japanese officer curtly put it to me, they were well-fed because they had to keep them strong to get any work out of them. They received no pay, but got one cigarette per man per day. I managed to smuggle a packet of cigarettes to one of them but the transaction was seen by a Nipponese sentry, the cigarettes were taken away and we were informed that if another incident of the same sort occurred, the man receiving the cigarettes would be severely beaten. They had no reading matter whatever and were not permitted to receive any from us. They had no news of the outside world since they arrived there and we were informed that, if we were seen talking to them or communicating with them in any way, they not us would be severely beaten. \*\*\* We did succeed in getting a few details from them.

### INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NO.	IN ONE OF THOSE
ASSIGNED A NUMBER FROM T	H BLOCK OF NUMBERS GIVEN
TO MR. Lt Col Mornane	THO OBTAINED THIS DOCUMENT
FROM: Legal Section	
THE ORIGINAL DOCUMENT TO	THE BEST OF OUR KNOWLEDGE IS:
returned to	source

FILES UNIT
Document Division



|--|

かちゃ 12 PP 的美 る. 9 軍局が to 村主 2

tz B PR 自える かん

到 12 班生的生 I 15

山子 t, でるっているい 日大之明

到生元 かれ ってん 行着の五月日 起 工場

上里し 荡 2 7 1/24

ちゃ 6 #5134-0 0 ān 12 0, 12 村面 インはかつ ためなってのころる 17 4てみた。 ti 場のしから 10. 500 身后 镇 13 5 世あ 古人 2

77 E 其文 1/2 当る上面のる F5 120 - Ca ig b 0 三井 17 9 1.0 雪 其の 7 建 崎 更 NE るのない 0 12 学 3 12/2 なる たかの Zi, 6 サイン 3, 17 2 1311 はまり かから 上なっとう 107 うとなってい るしてよるこ 月下三日 ( Po. 一川るあり 1401 便之 This っていて 1. 15 から 須

生めてあるよう 2 一大大 るとはなる 复 Tz. 西省 しのなるとうま とてかの内のす 1/2 日 ユシル いとして H. なのからる なる。 らめなれれる to 1021 25 SIENTIP D 西山田 とれれなり 41000 5 12 10/3 ā はかとらった I TO D È 北京自 川る. 13 ユニランイン b すせ

1 其文 # 5134 煙台は 西土之后子 楼 てかってる 九 0 おそんな 到美面 2 2 るなる を食る 天気 17 とのためのあ 自自 TH. とけん to IT でるす 124 (4) 好るら 話かち 十月 は 7 6 えなりま 17 一大大大大大 日子 外母方の 9 すれ 4 おくてい るとく 7 IJ 55 庫 14 7

ン プラック 13 八造遊店 ング 必看图

少野 未山 かしす 松等八 1-レゴ 万香 T \$4 一九四 四月 常月 レコンタ 二二十 末山 10 412 三月 礼连 智力たれ六二 大 マデ き方り ナニョ ニカテ 過敬室 和 た 主 監林 \* G P る大 から 写 7 石あり

五至沙 13 h 一サイクル 白 P ニムチ 車 四月 レン キャンプ 3 13 カラ ソレカラ 府 九四四八十 マレタ n 10 -1 十月 ケヤンギ N 12 1/4 マサ 去五 P

ニアル とびエ 东山 和等 97 電調 些と 彼 办 花草 五五七 于多 ナク 野刀 芝 15 府范 二旅行し 心意式 スコトラ 日本 キャンプ 2 コトラ 北極心 1 要 のる 九四三十 到着 なないコト 的東工儿 サレ レス れなす 7 至多看 カラ きまから 學言 かる をスルコ 日本二年 東海 致分 17 少年 しカラ 公人之

举

企

衛

n

衛生等

役等

华名 キャンプ 肥野なかけてして 挺 数ラリレマレク 配過之事 那一年也 彼为如 ヘテ 牙衛兵所 以外い ちりっセンか ,一将校力 本 高 万衛岳町二連 一声行十 頭 頭 り隔へ追込がず ソレカラム小部本了通路 24 美面デ 新ラ A かなおンド 衛告竹八 阳子 フオックレー、 多为 上上 ソゴデ 二日十四一 一分り 44 12 U ッラ ニナコ 之 颗 7 链 ラ監房 R 44 ないう 甚時 学七下 神口 5) ランフ レスシ 3 你當告 在子 7

對意被人裁判於長 正5 及米包 キャンプ ノ中ニハ 将軍や 在色老 全太平河教练力 空すも 馬來好印 人にマレテ 北マンち 712 高及 马车听 七光图 和學

知手 彼等 名人上同样 1高以将校り一般っ于在ルーラ見り 裁判 ドンナ 一面双心マンタ、 江 此 = 丽极 立三パーンラアル ハレマレタカ 44 小衛岳等 コトガ 丹军 他等七 江門面色 7 もりが 将军 他

一等重告書: 小事し 別しり レ ウァル 時年か なれてレン n 教タレナ 生いず

キャンプ 给告 江 日夕一出來事 勘しデモ城からうな心粉なかでし上 殿 不可能デレタ 入っす りけケマンク 114 以 / 本テ 小二二四 7 役方此方 74 正,年,楊ケロト 131 和兰 イリコトモナイ鬼則 へい 取极 松牛小 シングア ですたのり 非常 心将年が 花 衛岳 かつ 強調レマレタ、だりん 上上 殿町 in 嚴 此事 年デンタ、一般打了文字通り つりコトラ 門三なり野リテハ 右写為ラ 新座 一記,為 7 サル2 六天然 見附 ケマンダ 對人 5 社 新生之 100 罪 サ = 5

绮 居 同樣 数補子子作即時每十 您到 後か生り見 シンクコトラ はない テレンス 哦, Pi 直ラクリラ エナカラアリ 污 44 2 トなっ 大つうてはマス B 台村 外至 見っとり、 発見 又っ暗りテ夜色 三面 7 レマレラ 7.0 水水 7 人人以 五少りっ 1 衛生和 ング. 力役方 シーナイ 戸心時 衛生か ニュウルドラモ ハカラる人マデ ボタン 動 渥木林 9 後大大 シナイカ

アナラレマレタ 您回到 一時间以内二全十ヤンプが 好里丁公四段三二九年二 ラ 流ケラレナイ 凡ベラ 透城 J-12 他人 方付 131 シャ 大強ニナルコ 夜明 上カラ 軍 至 いすら 女山 64 タサレルモノト 等か苦情ラムフト 伊 多好好校查 い信じマス

海仍将校等, 高级,将校等二凡 あれかかとり。 事作,其地上 和一起男子人 立にれけか 元なてしり、 一交化二十七年格二大方在少行店了看人上 コトいんニハ から将校が往上接地ですが報告の動物 甚一卷人二報告一月礼的为忧郁二 コノセンからサレルとかう 便所 エック 衛年一段ラレセレス アクマンタ、分為キャンプ、野里 デンダ りゆりるかしい 酸かる 一世時方 衛兵り見してか生り 中ラのサレマレラ 世の ボタング 全却、放っ了 了一面的 夜間 明白 校意: 城 コー種ノ仮なが 五のかり 女が地方出 清水しり ラレラ、 "他便行人 後竹へ行カラトスル人い 変竹 二八 温木 一つり芸情か 之二次定世少方 衛岳"道二戰 勤少四日的 花門力止 12 5 キャングノを 夫之故 第り二 挨将又 夜宝/ 内国カラノ 林 行り生 なんりか カアつ 传鱼 1 宏 50 世史フ レンハ .. 梳 77 多 ちか. 否 MP 12 徐台 7 行力事极大 外ルーテ ナシュ ナラ 地 酒 語し丁 松平力か 1V+

您四到 う妻ケルノデンク

ラングスへ 我每 打名当月上記憶してセヌ 夏殿 到五里科 奉 将校少便 かいすんマス: しましりか 行力 彼 在林文 治丁三変 米国 将校,产 青 大定統 アワタ ソレテ部 17

= 左としているとうしてして 便所八行少为 三物海海方 裆 V T 爱东 经問 -

便料 他 衛台、将校二事水一杯二水 ノ後回到 ノコへ h 徐告二 連上方行时 投写しナイデ 其修二 シレガセ 更りるかし 衛台 フテル 水橋か 、其将枝, 月 五方河 七十十 世、事

分省 7 ナイコトデリレか衛兵等。取つテハ 院子充分三差場サセル 不可能可少 マラヤーナン, 中 二舟校水 いまやナ 台外 起来デンク 古人慢取り 肥スり 人是非

三左出 サレデ 六大をエルノから 比爱爱二 芸」 一時可干事十十十 少多人 ナラレマレク 指揮當二 か到こマタモヤ 物子が起出サレマレラ ショランイ 此机孩力 德河 カー

之外外 I 徳門り 事儿 物锅可提 白やナツ 200 唐 出 tv カスル ヨウトスル門 街台 五二十 ア、抗我二 きてい レル かつ 指挥力位 生り四カ 記憶とし 解答 リマレラ かつ

漫 德到 出 マンタ · 方,眼,周, 黑症力出來 ワタ和 より 112 一十七日からなニーノ 医上: 人,衛兵力 44 规到更 うたり十七日 ¥4かか 正統知り 胴府ラ鼓 か印かりまで侵し方なり ソレカラはい ヤマレタ 部 约一十人 户 ヤッテなっとり、 ハレカラ地上こ 二人二次 红玉 追 りてレタ、 一上らそえいな 他一件枝上 居信也多也少的校小 カスルノラレタ ラー 名自以品 供 占 小科」唇 程してしる 质 段丹校も在な 好事 倒してしり、 伯剛 芸二 につう 多和 又何 王与一 切レ 直が称 7 ンシッテ ,行為 1 見 附午 擅傷 13/2] 地上二 力を 气手ラ州 ケ 4 当形なっしり センニ 此面极力受力心 きしす たり 多二個私 棒過傷 出本儿 部座力 年与 トゥ 安勢 う支女ケ 110) 9 =

Z サレルッ 彼,院が時的ナコトラなっラ 伝でり 二對シラなるかららサレマンクカ 云つ 到 1-南 又将年 街 何等人 科修 是田月 私が In 以去 毛 しり面 往一般 左院 re 127 上文ケマセンテレ 上 = お再 12.2 在二十十 ナフ 血光 感到 于后 デモ

本件 スタ 佐季デンタ 上少タサレ 其間 被衛人 4 五しか 日本語于何力云公之之人 封カラ 和苦い ス等年い サレテルノハ 一 五時 レナ 此以接近外外的 其 彼,衛台門入西衛衛門丁連 テアレト彼っ 天皇, 大十二后答: 夏草 ソレアラ彼ノら和竹へ 日本 下古らか年奈 世一方教一方写 正しう 出サレマレフ 我川せてシタ ピース 生りくう湯 コルモ が持 里 00 一千地 能ラナカ 17 自体 ケレド 1 光ルコト 安粉千 In

ンタカ ナクが正件二年 14 抗哥之少吃 オキカ けして モシケ

7K

外一般ない ラケラレナイト

ナタラ アナタニ云智 立立内行行り物 コトデレタ 防を精ラのかりでしま なンタ 特別差人 スルノニ 7 观的城市22十後四 ショ いナラストニスフを野り 後的力後亦 衛台いつつう見事 部作 ランマンタ サレルト ニュッ 忍月記り 五军 不可

#3134

出ルノハ 当直将校、他以致了大田之歌力感り 出來又入 松芋八 一世, 動力和京就了少り 一些国時校一 時後か三人とかを時期的 一一十つレタ 及町かり 役三世科的方 ビショウが大計 後こことでして 金子國 局史 万玉和十三三二十二 10 六人易其本 朝新 他 小寺二 也 かち 瞎 れ上か 下子

尚教 彼ら 那三别七時二 ソコへい看りナり彼ら 銭フモ 見てしり 7 一般 フトランショナ 他し はえっている ピレヨラア大社の中心ラ 高田子 和小 で夕同心丹枝 役が 30 也上一卷 31/2 15 へてい

包方 李少東 今民事 成つうたてレタ か成 好路路 食事以 りっとう 这良けしディタルへ云んして 44 う比キャンプテ出るか 米级

·一十十年種類人看物七文公 醫奉文治品"松端"之之 サレ 花子品 マセン 245 您

H 金中和等 1 115134 へいく 5 報出一 一九四二年初 行か親り 7 以外 P 竹カラレ りマレア 多少数

四殿主生 

デンタ. テたっち いかっ 然しなり 江至老 記を方い からうつ 一百人 トラ しけた

信果 不法力改養之 吉可致宝工心見をいアリマレシカ 5 徳町 我走了 年段, 小り も アリマセンデ 信か デンフ 抗街河路出工 莲老 キャンプ

タマサタ 九 四三十 キャングン E 川 中レラ竹りレマレタ 将学放到长 弘 判門在事人

r K キャンプ 信事、杨端二 一年でり H 12 レド

岩寺地域テナ 相為任然 が後立チュレタか イノテ 野菜い小さでス 的至すう 1-レナルナウナル

44 立丁 了一九四三年 マティョマレク、 キャンプ 包 マラリヤ

亏? 九四四十十月一日 不住原地で

1-比キャンプ ノ衛生二就方 何力云

5134

二三国 比 五至近 米旬 止 55 センデンタ サレスレタ、 スルトマデ中出 大川程を 品サナイ キヤング レナこっレク、 好い 势 室門う 吸 からたり 苦忧心执海力 1107 ノケクラ ノサニ 俊州ラ神な元 ノ衛生二八 入ワタ 馬六り 行力 一多 出又系 ンミノ人夫が車ラ 便片 マレフ 海汉学 キャンプ 5 母女 阴的 四年衛兵 夕堂 ガラルンデ行キ 事:複シア キヤンプノ 美 13 不流 をレマレタ ち 女4 至門ラ シナリアンク いしマレタ 00 -中史ラ 人大事事 即即印白納 ノートデ 指軍 棉路工 アーフタ 持つう 湯 加力 りた 馬六十 遊物 ンレ 松子加 結果トレラ四十人 マレタ、 张ラ 野年二般りつトラ秀請 心丈 充分人生、后又 力与将极等以使片 艺宝 塩出サレマレク 14 俊竹が差しい かりも変 キャング 愛宝ノ信カラ 本作 シテムナイ下水ニ こしてしま ^ トラガ

的苦儿玩孩人出年上一 ンドち 2 红手ラヤラセラダコトニ對レ 善里色か センテレク 4 トンフラーカガレマレラ、 21 仁幸 於等心 Y 好等 マレタ、 水山山田 19年 正しか生り んもり火 後 色ッかれあってう顔ラレ 化花艺 り二年出野か 車河 りをきま 久ワラ

n 10 19 34 放图是等上 将军 日本